

一般社団法人 自転車駐車場工業会の取り組み

サイクルラック技術基準 最新レポート

従来基準から新基準へ「認定」を“移行”

「強度区分Ⅳ」を取得したサニカ「CL600」

■ サイクルラック技術基準「強度区分」

強度区分	想定設置場所	自然外力(重力以外)
I	屋内(地下階～1階)	地震力
II	屋内(地下階～3階)	地震力
III	屋外(地面)	地震力、風圧力
IV	屋外(地上10m高まで)	地震力、風圧力

2023年に改定したサイクルラック技術基準では、新たに4段階の「強度区分」を設定。



サイクルラック技術基準は、自転車駐車場工業会が独自に定める認定制度だ。近年の自転車の多様化・重量化等への対応とともに、激甚化する災害対策を視野に基準が見直され、2023年に大幅な改定を実施。新たに4段階の「強度区分」が設けられた。同工業会では、既に従来基準で認定を取得している製品についても、新基準に基づく認定への移行を推奨している。そして今般、従来基準で認定取得済みである株式会社サニカ（山梨県南アルプス市）の個別ロック式サイクルラック「CL600」が、改めて新基準「強度区分Ⅳ」での認定を取得した。

2019年に登場した同製品は、2021年に従来基準による認定を取得。同社として初めての認定取得であったが、

審査は非常にスムーズで、タイヤを保持する金属アームの塗装変更程度で認定を達成している（本誌13号参照）。

今回も、新たに設けられた最も厳しい基準である「強度区分Ⅳ」を、前回同様、製品仕様を変更することなく認定取得を達成したという。この事実が、同製品が製品開発段階から――まだ「新基準」への改定の話などは出ていないタイミングで――非常に高い強度や耐久性が与えられていたことを示している。

**使いやすい、
施工も、維持管理もしやすく**

同社が製品開発で重視しているのは「利用者が安心して使えることはもちろん、施工しやすく、維持管理もしやすいこと」

当工業会が2023年に改定したサイクルラック技術基準では、設置場所（屋内外・階数）と耐地震力・耐風圧力の組み合わせによる4段階の「強度区分」を新たに設けました。改定前の従来基準で既に認定審査をクリアしていた株式会社サニカの個別ロック式サイクルラック「CL600」が、新基準「強度区分Ⅳ」で改めて認定を取得しました。



「CL600」の高・低ラックを交互に配置することで、狭い間隔でも取り出しやすく効率的な収容が可能に。



子乗せ自転車や三輪自転車なども駐輪しやすいよう低ラックのみを配置した例。架台の取付ピッチも設置環境に合わせて選択可能となっている。

DATA

株式会社サニカ：<https://www.sanica.co.jp>
一般社団法人 自転車駐車場工業会：<https://jichuko.net>

自転車ロック装置 CL600

ロックユニット：モーター式タイヤロック機構			
収 納 可 能 自 転 車	本機の実力値		認定機の規格
	タイヤサイズ	16～28インチ	20～27インチ
	タイヤ幅	63mm以下	32～54mm
	質量	35kg以下	28kg以下

だという。同製品は16～28インチ、タイヤ幅最大63mm、最大重量35kgと、幅広い自転車に対応。また、タイヤを乗せるレールは「ハの字」形状に広がっていて、緩やかなレールの立ち上がり角度とともに自転車の出し入れのしやすさを向上させている。一方、事業者の視点で見れば、施工のしやすさに気づく。従来2本あった横方向に渡される架台を奥側の1本のみにしたこと、接地面にマンホールや点検口がある場所でも設置しやすくなったほか、ボルト・ナットのサイズを統一することで作業効率も高められている。なお、同社では製品開発の初期段階から

メンテナンス担当者が参画する体制が採られているという。また、センサー制御によるモーター式ロック機構が採用され、静粛性と確実なロックを両立させている。ちなみに、同製品が従来基準から新基準「強度区分Ⅳ」への移行を、製品の仕様変更を伴うことなく達成したということは、現在すでに設置済みの「CL600」もまた、新基準「強度区分Ⅳ」をクリアする実力を有しているのだという点にも触れておきたい。

新基準への移行を推進

今回取り上げた「CL600」の、従来基準から新基準「強度区分Ⅳ」への「認定」移行の取り組みは、サイクルラックの品質、とりわけその安全性が、今日求められる水準——相当に厳しい水準だ——に見合うものであることを社会にわかりやすく示すものであり、自転車駐車場全体の信頼性向上に資するものといえる。

自転車駐車場工業会では、今後もサイクルラック製品の「認定」の新規取得、従来基準からの「認定」の移行を推進していくとしている。



ラックを固定する横方向の架台は1本のみで、設置の自由度を高めている。



ロック機構は静粛性に優れたモーター式。センサーを搭載し、車両の有無によりロックの開閉を制御。